

| | | | |
|---|-------|------|------|
| 教員名 | 宮田 剛志 | 所属学科 | 地域政策 |
| <p>【ゼミでは何を学ぶのか】</p> <p>当研究室では、<u>現代社会の根源的な問題と関わる課題について、特に日本経済、そのもとでの食料・農業・農村問題に焦点をあてて、その理解を深めることを大きな目標とします。</u>各学年の到達点を概ね次のように考えています。</p> | | | |
| <p>【どのように学ぶのか】</p> <p>＜ 2年次後期 ＞基礎演習。</p> <p>日本経済の現局面とそのもとでの食料・農業・農村問題の理解を深めるために、『これからの日本の論点』各年次、『野生化するイノベーション』他の輪読を行います。</p> <p>＜ 3年次 ＞<u>3年次にはフィールドワークを通じて調査報告書・論文の作成を行っていくことを中心とします。</u></p> <p>①関連する学問分野の研究手法を用いながら食料・農業・農村問題が、どのように分析されているのかを整理していきます。</p> <p>②調査票の作成、調査の実施（<u>2016年度は明治大学、宮崎大学、高崎経済大学の3大学</u>）。</p> <p>③調査結果の分析、地域住民の方々との現地検討会（<u>修正点や処方箋の検討等々</u>）。</p> <p>④<u>報告書 / 論文の作成・完成：『地域版 食料・農業・農村白書』作成ないしは学外の全国学会に個別報告・論文投稿（ex.丸山他（2014）：学部生では唯一）を行います。</u></p> <p>（http://iss.ndl.go.jp/books/R000000004-I026020659-00）</p> <p>⑤<u>日本フードシステム学会の教育支援システムへの参加：食品産業界・行政等の現場で活躍されている方々に最先端を講義して頂く教育プログラムです（2019年8月、マルハニチロ㈱、味の素㈱による講義+グループワーク。全国の学部生+大学院生10名を限度。研究室による推薦。2回/年）。</u>（https://www.fsraj.org/education-support-system）</p> <p>＜ 4年次 ＞3年次の研究成果を踏まえて卒業論文を作成します。</p> | | | |
| <p>【学んだことはどのように生かせるのか】</p> <p><u>劇的に・あざやかに変身し、たちどころに「つぶし」が利くようになるわけではありません。</u>（大学時代の）投資の4年間で、<u>一生かけてじっくりと磨き上げ、利活用できるしっかりとした素養等をしっかりと根付かせていくことが大切だと考えます。</u>当研究室出身の卒業生は7期（2019年度）しか輩出しておりませんが次の職種で有為な人材として活躍してくれていると思います。</p> <p><u>（自治体、系統系・民間金融機関、農業団体、（上場）（食品）民間企業等々）</u></p> | | | |
| <p>【おすすめの入門書・基本テキスト】</p> <p>小田切徳美『農山村は消滅しない』岩波新書、2014年。HBR編集部編『チームワークの教科書』ダイヤモンド社、2019年。ジョセフ・E・スティグリッツ『世界に分断と対立を撒き散らす経済の罨』徳間書店、2015年他。</p> | | | |
| <p>【まだ見ぬ君へのメッセージ】</p> <p><u>「直ぐ役に立つ人間は直ぐ役に立たなくなる人間だ」。</u>慶応大学理工学部の前身、藤原工業大学の初代学部長をつとめた谷村豊太郎が、<u>（当時の）実業界の「直ぐ役に立つ人間を作ってもらいたい」との注文に対してこのように応えた</u>とされています。<u>至言であると考えます。</u>さて、<u>（大学時代の）投資の4年間に何を学びますか？</u></p> <p>（東京大学・農学部・農業・資源経済学専修「農業・資源経済学専修のすすめ」より）</p> | | | |